

視聴覚教育

NO. 414

発行日
27. 7. 17

発行

岡崎市 A V L
編集

現職研修委員会
学習情報部

これ知ってる!?

『スクリーンキャプチャ』

キーボードの「PrtSc」キーを押すと、PCの画面がクリップボードに保存され、目的のソフト上で「貼り付け」ができるようになる。「ペイント」など画像編集ソフトに貼り付ければ、必要な部分だけ切り取って保存できる。

|| 視聴覚教育あれこれ ||

●夏の『TAV』（学習情報部夏期自主研修会）

夏期休業中の夕刻に、岡崎市内小中学校の全職員を対象にした自主研修会を開催します。普段は忙しくて参加できないという方も、この機会に参加してみたいかがでしょうか。今回は、情報セキュリティについての研修が用意されています。開始時間が17時30分と、いつもの開始時間とは異なりますので、ご注意ください。

詳細については、TAVの案内チラシをご覧ください。

【日程】7月29日（水）17時30分

【場所】総合学習センター

【内容】「情報セキュリティについて」

●授業力アップセミナー【基礎編】

【日程】7月31日（金）

【場所】新香山中学校

●授業力アップセミナー【応用編】

【日程】8月7日（金）

【場所】井田小学校

●第31回NHK杯全国中学校放送コンテスト

愛知県大会の結果

7月4日（土）、NHK名古屋放送局で中学校放送コン

テストの愛知県大会が開催されました。岡崎市の中学生

も参加し、素晴らしい成果を収めました。おめでとうございます。

【朗読部門】

優良賞 岡崎市立六ツ美北中学校 二段 日華里

入選 岡崎市立北中学校 (全国大会出場)

【アナウンス部門】

入選 岡崎市立六ツ美北中学校 鈴木 佐和衣

【ラジオ番組部門】

最優秀賞 「誇りと伝統を受け継いで」 岡崎市立六ツ美北中学校 (全国大会出場)

入選 「白熱! 口論教室」 岡崎市立北中学校

【テレビ番組部門】

優秀賞 「全力カヌー部 全国優勝への道」 岡崎市立新香山中学校 (全国大会出場)

制作者の思いにふれる

制作者の思いにふれる 視聴覚ライブラリー所長 小野 鋼二

真つ暗なスクリーンにタイトルが浮かび上がる。間もなくして音楽が流れ、画面いっぱい美しい景色が目飛び込んでくる。会場から「おっ」と声が漏れる。作品鑑賞が終わると、会場は自然と拍手で包まれ、制作者は満面の笑顔となる。毎年七月に開催されるビデオ講習会作品鑑賞会での一幕です。

映像を制作するには、まずコンテ作りから始めます。コンテとは、制作者が考えたストーリーをもとに、画面構成やカット割りなどを示した撮影用台本です。制作者はコンテを作りながら、視聴者に何を、どのように伝えるかを考えていきます。この段階で、作品のおおよその方向性が決まると言っても過言ではありません。

コンテが完成すると、次は撮影に取りかかります。慣れた人であっても、一度の撮影で納得のいく映像を得ることは難しいです。それは、映像を表現する要素が非常に多いからです。例えば、光の向きや量、カメラを動かす方向や速さ、ズームの使用量などが挙げられます。撮影をする場合は、光を背にすることが一般的です。

光に向かって撮影すると逆光となり、映像は真つ暗になってしまいます。本来ならば失敗と言われる映像になりますが、あえて被写体の表情を暗くすることで、悲しみを表現したり、表情を隠したりする場合に使うことができます。つまり、意図的に使用することで、ただの失敗映像が表現の手法へと早変わりします。映像制作は、とても奥が深いです。

撮影が終わると、いよいよ編集です。現在は、撮りためた映像をパソコンに取り込み、編集を行うノンリニア編集が一般的です。撮影した映像の必要な部分を切り取って並べたり、文字情報であるテロップを加えたりし、作品をイメージに近づけていきます。何十時間もかけて撮影した映像を編集し、数分の映像作品をつくり出すので、撮影をした映像の大部分は使われないことがあります。しかし、自分のイメージを具体化するためには、欠かせない過程なのです。

映像作品には制作者の思いが詰まっています。それ故に制作者は作品に深い愛着を抱き、鑑賞者は感動を覚えます。今年も制作者の思いにふれられるビデオ講習会が楽しみです。



II 実践報告 II

身近なICTの活用力を育てるために

竜谷小学校 八木 規之

現在、子供たちの生活環境の中にはICTを用いた機器がたくさんある。その身近な機器を活用することで、さらに子供の学びが深まると考え、ICTを用いた機器を子供に活用させる実践を行った。

教室で一番身近に使える機器は、教材提示装置である。本紙面では、教材提示装置を教室で活用した例について、いくつか紹介したい。

まずは、教材提示装置の準備である。朝、廊下や教室の窓開けと並行して、パソコンを立ち上げ教材提示装置をいつでも使えるようにしておく。そうすれば「使いたい」と教師が考えたときに活用でき、子供の活動を止めることがない。

授業で使う教材提示装置の便利な機能としては、画面の一部を拡大できるデジタルズーム、画面の一部を隠すことができるマスクという機能を使って「これ、なんだ？」クイズを室内レクで行った。レク係が「これなんだ」と操作をしながら問題を出すと、「もつと見せて」「あつ、わかつた」などと、子供同士でやり取りをしながら見せ方を工夫する姿が見られた。教材提示機の活用により、自分の意図に合った見せ方を、子供自身が考えることができた。



また、デジタルカメラとの連携も重要だ。デジタルカメラで撮影しておいた前時の板書を、教材提示装置から大型ディスプレイに映し、前時における考えや予想を振り返って各自の考えの変容を確認させた。このように、デジタルカメラと教材提示装置の機能を組み合わせる使用により、子供たちの思考のつながりを大切にした授業を展開することができた。

教材提示装置の活用は、手軽だが効果が大きい。子供が使いたいと感じ、かつ、分かりやすく発表できるような活用の仕方を今後も考えていきたい。

II レッツ・トライ II

子供たちの興味・関心を高めるNHK番組教材

学校生活のさまざまな場面でも、NHK教育番組の活用を進めている。図画工作科の鑑賞では、絵画や造形からの自由な発想を楽しむための雰囲気作りとして、導入場面で「びじゅチューン」を視聴した。軽妙な音楽と美術作品からの独特の着想を基にした歌詞は、子供たちの耳になじみやすく、一度聞いただけで歌い出す子も多い。その後のアートカードを使った鑑賞活動においても、積極的な発言で友達とかわりながら展開することができた。

「びじゅチューン」は、子供たちの心に強く残ったらしく、放課の時間などには、ふいに番組中の曲を口ずさむ子が多くいた。中には、「先生、いつも図工の時間は『びじゅチューン』を見てからやるようにしようよ」とリクエストする子もいた。「びじゅチューン」は美術鑑賞に興味をもたせるのに効果的な教材だと言えるだろう。

また、理科では「ふしぎがいっぱい」を一人調べ活動に利用している。NHKのサイトには、短い動画コンテンツが、豊富に用意されている。子供自身が検索すると、目的とする内容の資料までたどり着かせることは難しい。しかし、これらの動画コンテンツを、パソコン室で各自の目的意識に沿って閲覧させることで、効果的な調べ活動を行わせることができる。

このように、NHK番組教材を授業で効果的に利用すれば、子供の興味・関心に寄り添った資料を効率的に利用した指導をすることができ、教材研究の折には、NHK教育番組のサイトをのぞき、視聴することを強くお勧めする。

(緑丘小学校 学習情報主任 鈴木和二)

TAV実践報告I

● 学習情報部自主サークル「TAV」

〈 第二回「タブレット端末を活用しよう」 〉

第二回TAVは「タブレット端末の活用」というテーマで行われた。日頃の授業の中で、実際にタブレット端末を使用した実践を元に、受講者による授業の追体験をしようという内容であった。今回は、国語科・英語科・数学科の実践が紹介され、どの教科でも「明日にでも教室で使える」ものばかりであった。国語科では「コラボノート」と「短焦点プロジェクト」を活用した、協働的な学びに軸をおいた授業が紹介された。「コラボノート」を使ったペア学習を受講者自身が体験した場面では、子供と同じようにペアで真剣に課題に取り組み、意見を交わしていた。タブレット端末が協働的な学びを深める手だてとして有効なものであることを実感してもらったことができた。

「短焦点プロジェクト」の活用場面では、タブレット端末との連携による電子黒板機能が紹介された。その中で「リアルタイムな画面への書き込みを受講者全員が共有する」という体験が行われた。ICTを活用した授業の新しい展開の一例として、各教科での実践において大変参考になるものであった。

今後、タブレット端末は、協働的な学びを実現するための手だてとしてより普及していくであろう。しかし、教員がその扱いに苦慮しているという実態もある。学習情報サークル「TAV」が、そうした現場の悩みを緩和する手助けとなることを願っている。

